

1939年エルジンジャン地震（トルコ）とその帰結：地震の社会史

The Consequences of the 1939 Erzincan Earthquake, Turkey

木村 周平 [1]

Shuhei Kimura[1]

[1] なし

[1] CSEAS, Kyoto Univ.

近年、国内では北原系子らの貢献によって、災害の社会史と呼ばれる研究が進められている。本発表では、トルコ共和国において1939年に発生したエルジンジャン（Erzincan）地震を対象とし、地震という出来事が社会や科学にどのような影響を与えたのかについて考察する。

エルジンジャンはトルコを東西に横断する北アナトリア断層の東端に位置し、きわめて地震の多い地域にあり、近年でも、1992年に起きた地震において約500人の死者を出している。本発表で扱うのは、1939年12月27日に発生し、近代トルコ最大の3万3千人の死者を出した地震である。本発表ではまず、災害の社会史に関する先行研究を整理し、その上で、この地震の概要、さらにこの地震が1923年に成立した共和国政府や現地社会、あるいはトルコ地震学の発展に対してどのような影響を与えたかについて、現地調査の成果も交えて議論したい。